

2016年（平成28年） 8月12日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

7/28～8/3のNYMEX・WTIは、39.51～41.60ドルの範囲で推移したが、2日には4カ月振りに終値で40ドルを割り込んだ。

8月4日は、イラク原油の高水準生産の報道等供給過剰感根強かったものの、前日の米国エネルギー情報局(EIA)週報の予想外のガソリンの在庫急減報告を好感して、続伸した。9月限の終値は、前日比1.10ドル高の41.93ドルとなった。

週末5日は、堅調な米国の雇用統計の報道はあったものの、前日までの上昇の反動やドル安・ユーロ高による原油の割高感、さらにペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数(381基)の7週連続増加(前週比7基増)の報告等により、3日振りに反落した。9月限は前日比0.13ドル安の41.80ドルで終了した。

週明け8日は、OPEC(石油輸出国機構)が、9月下旬に原油価格安定のための非公式会合を開くと発表したことから、原油供給過剰解消への期待が高まり、値上がりした。9月限の終値は、前週末比1.22ドル高の43.02ドルとなった。

9日は、前日の値上がりに伴う利益確定の動きや、供給過剰懸念から反落した。9月限の終値は、前日比0.25ドル安の42.77ドルだった。

10日は、EIA週間統計で、米国原油在庫が市場予想(100万バレル減)に反し3週連続して増加(110万バレル増)したことから、大幅に続落した。9月限の終値は、前日比1.06ドル安の41.71ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週38.60～40.40ドルの範囲で40ドルを割り込む

日が多かった。4日は39.90ドル、5日は40.70ドル、8日は41.30ドル、9日は41.90ドル、10日は41.70ドルとやや回復した。

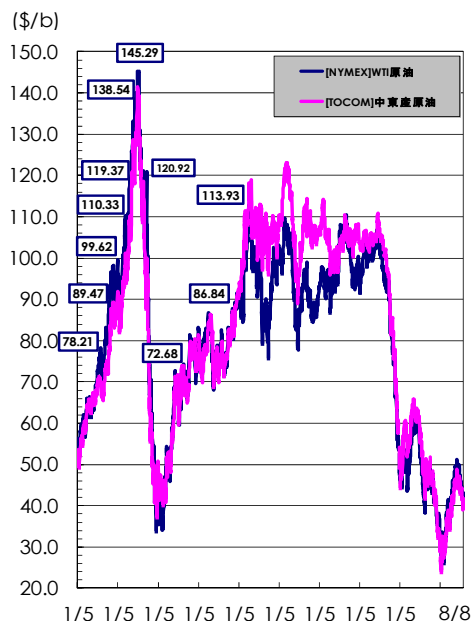
為替は、前週101.16～104.69円の範囲で円高方向に推移した。4日は101.25円、5日は101.27円、8日は102.12円、9日は102.40円、10日は101.62円と引き続き円高方向で推移した。

財務省が5日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、7月中旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比811円下げの30,593円/kl。ドル建てでは47.63ドルで前旬比0.35ドル安。為替レートは1ドル/102.10円。

主要元売会社の8月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから1.5円の値下げに分かれた。原油は値下がりし、為替も円高で、原油コストは小幅に値下がりした。

そのような中で、8月8日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値下がり122.0円、軽油は0.2円値下がり102.2円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油は2週振りの値下がり、灯油は2週連続の横ばいだった。この週の原油コストは値下がり、元売の卸価格は据え置きと1.5円の値上げに分かれた。

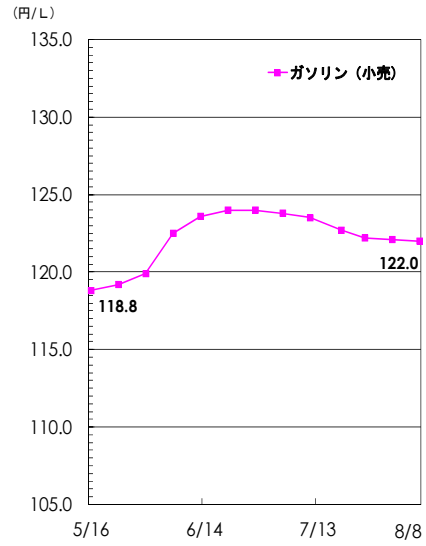
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/31 ~ 8/6	3,833 ▲85	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	90.2 ▲2.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/6	14,887 ▼-396	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/8	41.68 ▲0.50	▼-5.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/8	43.02 ▲2.96	▼-1.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月中旬	47.63 ▼-0.35	▼-16.15
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	30,593 ▼-811	▼-18,769
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	102.10 ▲1.97	▲20.94
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/8	103.12 ▲0.33	▲22.30



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/31 ~ 8/6	1,107 ▲ 37	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,162 ▲ 120	▼ -	
	輸出	"	5 ▼ -63	▼ -	
	在庫	8/6	1,651 ▼ -59	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/2 ~ 8/8	40.7 ▼ -0.9	▼ -12.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/2 ~ 8/8	38.6 ▼ -1.3	▼ -14.9
		(TOCOM/中部)	8/8	38.5 ▼ -0.8	▼ -13.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/8	122.0 ▼ -0.1	▼ -18.0	

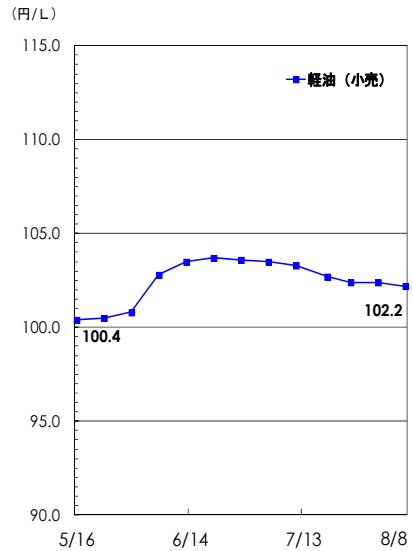
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

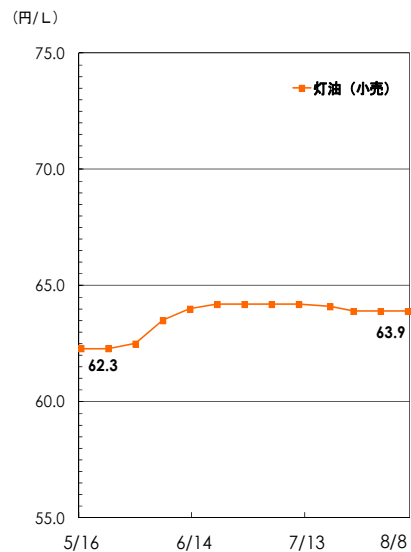
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/31 ~ 8/6	812 ▲ 74	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	613 ▼ -25	▼ -	
	輸出	"	182 ▲ 88	▲ -	
	在庫	8/6	1,525 ▲ 17	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/2 ~ 8/8	38.9 ▼ -0.6	▼ -10.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/2 ~ 8/8	36.1 ▼ -1.1	▼ -13.4
		(TOCOM/中部)	8/8	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/8	102.2 ▼ -0.2	▼ -16.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/31 ~ 8/6	143 ▼ -63	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	74 ▼ -45	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	8/6	2,249 ▲ 69	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/2 ~ 8/8	37.1 ▼ -1.4	▼ -12.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/2 ~ 8/8	35.6 ▼ -1.7	▼ -14.0
		(TOCOM/中部)	8/8	36.0 ▼ -1.0	▼ -13.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/8	63.9 ➡ 0.0	▼ -19.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

10日のNYMEX市場のWTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の発表した週間統計で、米国原油在庫が市場予想(100万バレル減)に反して増加(110万バレル)したことから、続落した。製品在庫の増加から、製油所の稼働が減少しているとの見方が強い。また、OPECの8月の原油生産が、日量3,310万バレルと過去最高を記録したことも影響した。

取引の中心限月である9月限の終値は、前日比1.06ドル安の41.71ドル、10月限の終値は、前日比1.04ドル安の1バレル42.46ドルだった。

EIAによると、8月8日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比0.9セント値下がりの1ガロン2.150ドル(58.5円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.2セント値下がりの2.316ドル(63.0円/ℓ)。ガソリンは8週連続の値下がり、軽油は6週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、7月31日～8月6日に休止したトッパー能力は、1.7万バレル/日と前週に比べて7.5万バレル減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は383.3万klと、前週に比べ8.5万kl増加。前年に対しては7.7万klの減少。トッパー稼働率は90.2%と前週に対して2.0ポイントの増加、前年に対しては0.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.4%増、ジェット/16.4%増、灯油/30.7%減、軽油/10.0%増、A重油/2.2%増、C重油/7.6%減。今週のC重油の輸入は7.8万kl(前週比1.4万kl減)。軽油の輸出は18.2万kl(前週比8.8万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。需要月の8月に入り、小売価格が6週連続の値下がりとなる中で、ガソリンの出荷は116.2万kl(対前週11.5%増)と2週振りに前週比で増加、2週連続で前年比で減少となり、6週連続で100万klを超えた。

ジェット13.6万kl(対前週76.5%増)、灯油7.4万kl(対前週37.9%減)、軽油61.3万kl(対前週3.9%減)、A重油20.0

万kl(対前週6.0%増)、C重油25.9万kl(対前週16.2%減)。

(単位：千KL)

	今週 (7/31 ~ 8/6)	前週 (7/24 ~ 7/30)	前週比
ガソリン	1,162	1,042	▲ 120 (12%)
ジェット燃料	136	77	▲ 59 (77%)
灯油	74	119	▼ -45 (-38%)
軽油	613	638	▼ -25 (-4%)
A重油	200	189	▲ 11 (6%)
C重油	259	309	▼ -50 (-16%)
合計	2,444	2,374	▲ 70 (3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月6日時点の在庫はガソリン、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては軽油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは165.1万kl、前週差5.9万kl減。前年に対しては9.2万kl多い。

灯油は224.9万kl、前週差6.9万kl増。前年に対しては25.0万kl多い。

軽油は152.5万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては24.5万kl少ない。

A重油は75.0万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては0.1万kl多い。

C重油は189.6万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては21.3万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (8/6)	前週 (7/30)	前週比
ガソリン	1,651	1,710	▼ -59 (-3%)
ジェット燃料	1,062	1,012	▲ 50 (5%)
灯油	2,249	2,180	▲ 69 (3%)
軽油	1,525	1,508	▲ 17 (1%)
A重油	750	761	▼ -11 (-1%)
C重油	1,896	1,893	▲ 3 (0%)
合計	9,133	9,064	▲ 69 (0.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月2日から8月8日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円高で共にコスト引き下げ要因だったことから、小幅な値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン94円台、軽油38~39円台、灯油36~37円台で弱含みに推移した。海上スポット価格は、ガソリン93~95円台、軽油40~41円台、灯油34~35円台でこちらもやや軟化した。先物価格はガソリン91~92円台、軽油35~36円台、灯油35円台でこちらも軟調である。原油コストの下落が、一般的に影響した。元売の卸価格は据え置きから1.5円の値下がりだった。

EMGマーケティングは10日、13日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリンのみ1.0円引き上げ、その他の油種は据え置き旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油価格の軟化と円高による原油コストの下落により、製品スポット市況は、一般的に軟調に推移した。週間のガソリン販売量は、6週連続で100万klを超え好調である。

8月第3週(8月11日~8月17日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月2日~8月8日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.9円、灯油は1.4円、軽油は0.6円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円、灯油は1.9円、軽油は1.4円の値下がり、先物価格は、ガソリンが1.3円、灯油が1.7円、軽油が1.1円の値下がりだった。原油コストの値下がりに伴い、一般的に値下がりとなった。

8月第3週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.5円の値下がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (8/2 ~ 8/8)	前週 (7/26 ~ 8/1)	前週比	
レギュラー	40.7	41.6	▼ -0.9	
灯油	37.1	38.5	▼ -1.4	
軽油	38.9	39.5	▼ -0.6	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]	今週 (8/2 ~ 8/8)	前週 (7/26 ~ 8/1)	前週比	
レギュラー	38.6	39.9	▼ -1.3	
灯油	35.6	37.3	▼ -1.7	
軽油	36.1	37.2	▼ -1.1	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/2~8/8実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.9	▼ -1.3	▼ -1.1
灯油	▼ -1.4	▼ -1.7	▼ -1.5
軽油	▼ -0.6	▼ -1.1	▼ -0.9
A重油	▼ -0.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月8日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値下がりの122.0円、軽油は前週比0.2円値下がりの102.2円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油は2週振りの値下がり、灯油は2週連続の横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは9道県、横ばいは11府県、値下がり27都府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(前週比0.5円高)の117.1円、次が秋田県(前週比0.6円高)の117.7円だった。最高値は長崎県(同0.1円高)の131.7円だった。都道府県別で最も

値上がりしたのは前週比1.3円高の神奈川県(120.1円)、最も値下がりしたのは前週比1.4円安の山形県(122.9円)だった。

原油コストは値下がり、卸価格は各社対応が分かれたが、6週連続で小売価格は値下がりした。原油価格の値下がり円高で、原油コストは引き続き小幅に値下がりしたが、前週までの卸価格引き上げが影響する可能性もあり、次週の小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			直近高値	
	今週 (8/8)	前週 (8/1)	前週比			
レギュラー	122.0	122.1	▼ -0.1	08/8/4	185.1	
灯油	63.9	63.9	→ 0.0	08/8/11	132.1	
軽油	102.2	102.4	▼ -0.2	08/8/4	167.4	

小売価格

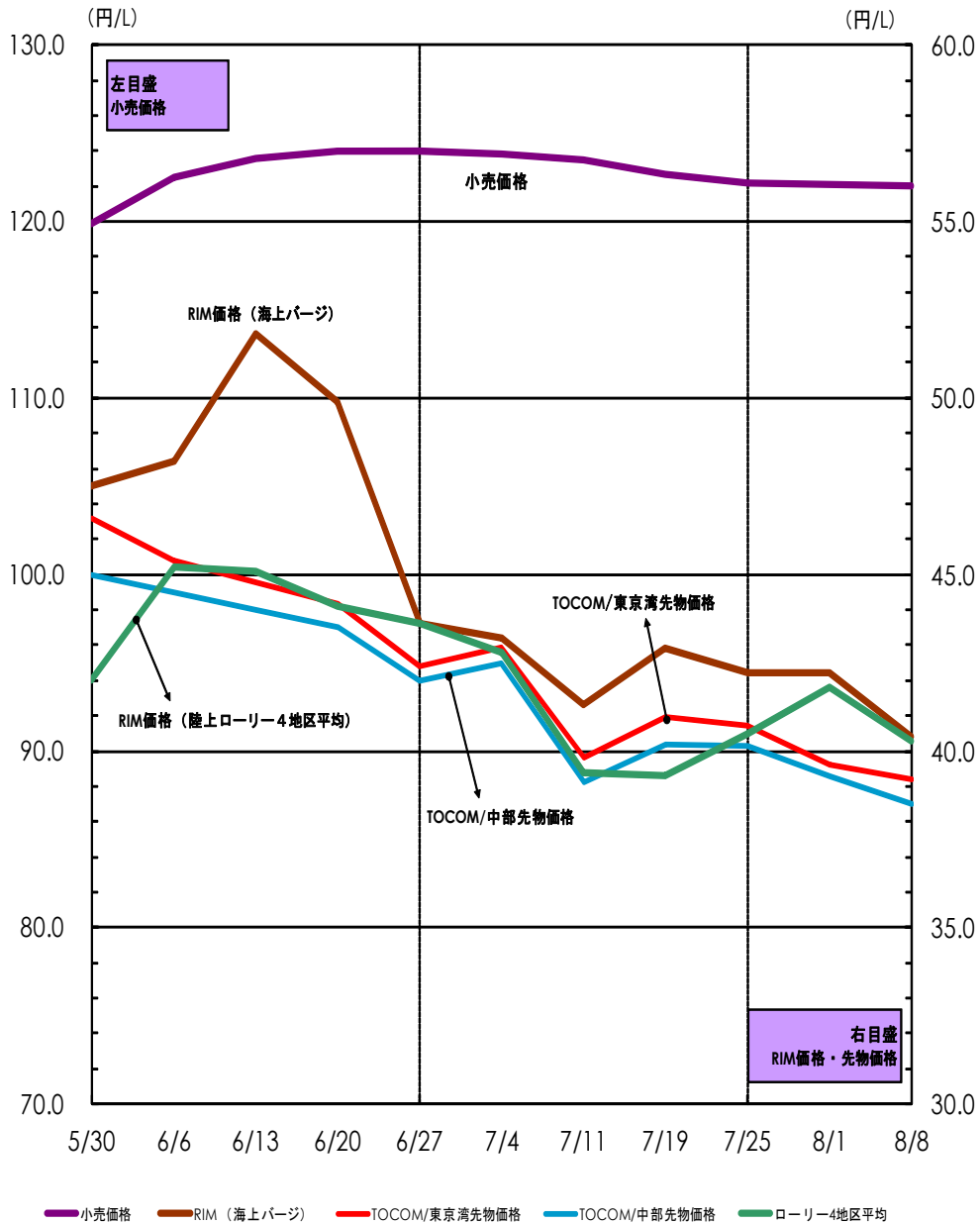
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/5/30 ~ 2016/8/8)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
 次回(2016第20号)の公表は、8/26(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
 当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
 また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
 当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
 「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
 中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
 中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
 原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
 TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。